

平成28年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成29年5月

姫路市（兵庫県）

○計画期間：平成27年4月～平成32年3月（5年0月）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成28年度終了時点（平成29年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成27年3月27日に第2期目となる中心市街地活性化基本計画の認定を受け、「人々が行き交いまちの鼓動が聞こえる城下（まち）」を基本テーマに、「行きたい城下（まち）」「にぎわう城下（まち）」「住みたい城下（まち）」「市民が主役の城下（まち）」の4つの基本方針のもと、同計画に掲げる43事業に取り組んでいる。

本市の中心市街地をめぐる現状として、大天守の保存修理事業を終えた世界文化遺産・姫路城がグランドオープン（平成27年3月27日）し、年間来城者数が過去最高となる286万人を記録した平成27年度に引き続き、平成28年度も211万人を超えるなど、依然として国内外より多くの観光客が訪れている。また、姫路駅周辺では、姫路の玄関口となる姫路駅北駅前広場の整備が完了した後、広場が市民や観光客の憩いと交流の場として定着してきたとともに、姫路駅周辺における新たな商業施設のオープンや、キャストィ21コアゾーン整備事業の進捗などにより、これまで都市部へ出かけていた若い世代や家族連れがまちなかを回遊する姿が多く見られる。

これらにより、街なかの魅力が更に高まったことで、姫路駅周辺エリアでは、引き続き民間マンションの建設が進められるなど、街なかの活性化に向けた明るい兆しが見受けられる。また、商店街の空き店舗数についても、創業による新規出店が退店数を上回るなど、改善の兆しが見られる。しかし一方で、商店街などで賑わいづくりに向けた活動を行うプレイヤーは多いながら、プレイヤーの繋がりや連携がうまく図られていないことから、市民・観光客に街なかで行われている活動があまり知られていない状況である。結果として、姫路駅周辺などハード整備が行われた場所のみが賑わいを見せるなど、商店街をはじめとする中心市街地を取り巻く環境は、依然として厳しい状況であることから、今後も、姫路駅周辺の賑わいを周辺の商店街エリアをはじめ街なか全体へと波及させるべく、来街者の回遊性を向上させる取り組みや工夫が重要であるとともに、タウン・エリアマネジメントの運営に向けて組織・人材育成を戦略的に進めることが重要であると感じている。

現在、ハード事業としてキャストィ21コアゾーン（A・Cブロック）整備事業及び姫路駅から姫路城までをつなぐ大手前通り再整備事業に着手している。また、今後、コアゾーンよりも東に位置するキャストィ21イベントゾーンにおいて、文化コンベンション施設等の整備事業も進むことから、より一層、市民や民間事業者との連携を深めることで、ハード事業だけではなく、ソフト事業の充実を図り、都心部の賑わいと活力の増大を目指す。

2. 平成28年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

姫路駅周辺整備事業の進展により、姫路駅周辺エリアにおける商業施設のオープンや、姫路駅北駅前広場の利活用の促進などにより、来街者の増加とともに、まちなかに若い世代が増え、回

遊性が高まっている点は一定の評価はできる。しかし一方では、商店街において魅力ある店舗の新規出店があるものの退店もあり、目標数値に掲げられる空き店舗数など解決すべき課題が存在することも事実であり、依然として中心市街地を取り巻く環境は厳しいと認識している。今後さらに、中心市街地の賑わいを創出し、街なかの回遊性を向上させるためにも、街なかでまちづくり等の様々な活動をする市民・団体等がより一層連携し、一体となって事業展開をすることができる体制の構築を目指すとともに、タウン・エリアマネジメントの運営に向けた組織及び人材の育成に取り組む必要がある。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
新たな魅力の創出と移動環境の向上による来訪者数の増加	歩行者・自転車通行量	63,639 人/日 (H22~25 平均値)	82,000 人/日 (H31 年度)	72,417 人/日 (H28 年度)	①	①
新陳代謝の促進による街なか(商店街)の活性化	空き店舗数	36 店舗 (H25 年度)	28 店舗 (H31 年度)	34 店舗 (H28 年度)	②	③
多世代が快適・便利に暮らせる居住環境の向上	居住者数	8,797 人 (H25 年度)	8,894 人 (H31 年度)	9,318 人 (H28 年度)	①	①
市民が躍動できる仕組み・体制の構築	公共空間利活用のルールのもとで行われるイベント実施日数	286 日/年 (H25.9~H26.8)	321 日/年 (H31 年度)	441 日/年 (H28 年度)	①	①
(補完指標)	中心市街地に対する市民の評価	42.7% (H26年度)	50.0% (H31 年度)	平成 29 年度フォローアップ		

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「歩行者・自転車通行量」については、グランドオープン後1年が経過した姫路城の集客効果や姫路駅周辺の新しい商業施設の開店に伴う集客効果のほか、コミュニティサイクル事業、姫路駅北駅前広場活用事業などにより、基準値と比較して、数値は増加している。

「空き店舗数」については、中心市街地商店街内の空き店舗への出店者に対する家賃補助等をはじめ、商店街以外での街なか創業者への支援制度による商店街の魅力づくりに向けた取り組みにより、新規出店者が退店数を上回るなど、空き店舗数は、基準値と比較して、減少している。

「居住者数」については、姫路駅周辺土地区画整理事業のほか、キャスティ 21 コアゾーン整備事業等の姫路駅周辺整備事業などの進捗により、街なか居住の魅力が向上することで、引き続き民間マンションの建設が進むなど、基準値と比較して、増加している。

「公共空間利活用のルールのもとで行われるイベント実施日数」については、姫路駅北駅前広場の整備完了後、週末だけではなく平日においても、多彩なイベントが行われるなど、依然として高い稼働率で広場の活用が図られており、基準値と比較して、増加している。

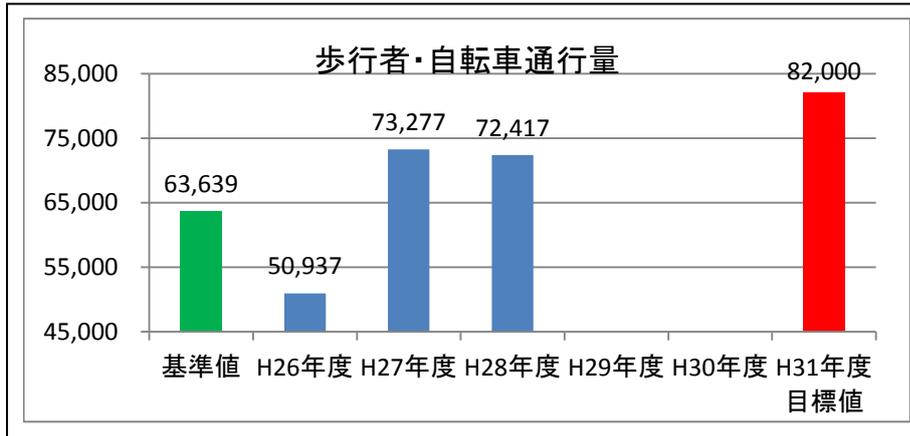
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

「空き店舗数」(前回②)については、「中心市街地商店街空き店舗対策事業」や「街なか起業家支援事業」により、商店街の魅力づくりに向けた取り組みを進めた結果、目標達成可能な数値まで改善した。しかし、店舗の立地や、老朽化等の理由により、空き店舗である状態が長期間に渡り続いている店舗も見受けられることから、目標達成に向けて、より一層の事業推進が必要であるため、③と評価した。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P72～P79 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H22 ～25	63,639 人/日 (基準年値)
H27	73,277 人/日
H28	72,417 人/日
H29	
H30	
H31	82,000 人/日 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行量調査

※調査月：平成28年4月29日実施、5月取りまとめ

※調査主体：姫路市

※調査対象：中心市街地内7地点

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. キャスティ21コアゾーン(Aブロック)整備事業(マルイト株)

事業完了時期	平成26年度～平成29年度【実施中】
事業概要	国際都市・姫路の魅力をより高める、上質でアメニティ溢れる都市型ホテルを整備する。
事業効果及び進捗状況	平成28年度は、8月から建築工事に着手した。現在、平成29年度末(平成30年3月下旬頃)の施設竣工(事業完了)に向け、建築工事等が順調に進行している。

②. キャスティ 21 コアゾーン (B ブロック) 整備事業 (エミス株)

事業完了時期	平成 26 年度～平成 27 年度【済】
事業概要	シネマコンプレックスを核とした商業施設を整備する。
事業効果及び進捗状況	平成 27 年 7 月 24 日の商業施設 (テラッソ姫路) オープン以降、通行量が増加するなど、一定の集客効果が認められる。 [歩行者等通行量] (調査地点: テラッソ姫路北西) 994 人 (H27. 4. 29) → 9,000 人 (H28. 4. 29) 今後も引き続き、商店街をはじめ、街なかの魅力を高めるとともに、情報発信を強化することで、施設への来客者を街なかへ誘引する取り組みを行う必要がある。

③. キャスティ 21 コアゾーン (C ブロック) 整備事業 (学神戸滋慶学園)

事業完了時期	平成 26 年度～平成 29 年度【実施中】
事業概要	医療系専門学校などを整備する。
事業効果及び進捗状況	平成 28 年度は、12 月からフィットネスジムなどのサポート施設と専門学校 (医療系学科) の建築工事に着手した。平成 29 年度は、夏頃にフィットネスジムの共用を開始するほか、同時期から健康生きがい開発棟 (高齢者住宅・保育所・クリニック) の建築工事に着手し、同年度末にすべての施設が竣工し、順次供用開始する予定である。

④. コミュニティサイクル事業 (姫路市)

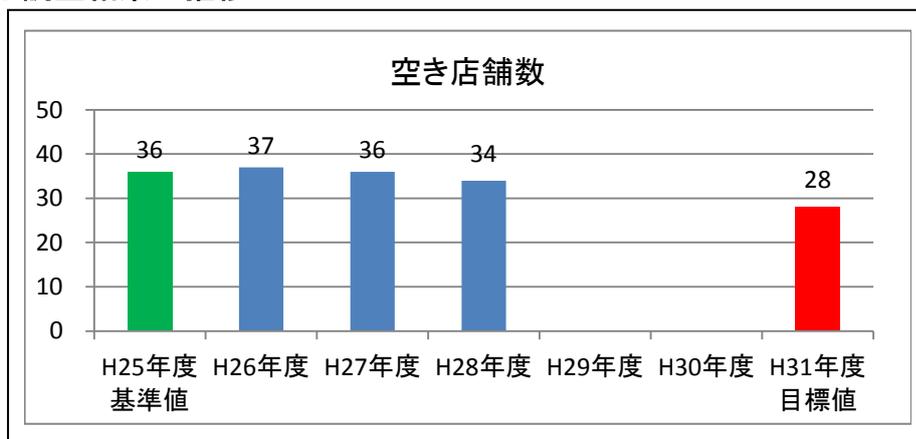
事業完了時期	平成 28 年度～平成 31 年度【実施中】
事業概要	姫路駅前や姫路城周辺など都心部で、自由に乗り降りできるレンタサイクル (姫ちゃり) を導入する。
事業効果及び進捗状況	平成 26 年度及び平成 27 年度に実施した社会実験を踏まえ、平成 28 年 7 月 1 日から本格運用を開始した。また、平成 29 年 2 月 1 日からサイクルポートを 6 箇所増設し 16 箇所となった。平成 28 年度は、7 月 1 日から翌 3 月末までの期間中、19,922 人 (29,384 回) が利用した。平成 29 年度は、街なかの回遊性と都心部周辺エリアへの利便性の向上を目指し、サイクルポートを 4 箇所程度増設する予定である。

●目標達成の見通し及び今後の対策

昨年度に比べ、姫路城のグランドオープン及び姫路駅周辺の商業施設オープンによる集客効果が落ち着きつつあることから、昨年度と比較し数値は減少したが、主要事業であるキャスティ 21 コアゾーン各ブロックの整備事業、コミュニティサイクル事業も順調に進捗しており、目標達成は可能だと思われる。今後は、主要事業に加え、大手前通り (十二所前線以北) 再整備事業や商店街整備事業などのハード事業と、タウン・エリアマネジメントを視野に入れた仕組み・体制づくりや商店街にぎわい創出事業などのソフト事業を総合的に実施することで、中心市街地内全体に効果を波及させ、さらに実績を伸ばしていきたい。

「空き店舗数」※目標設定の考え方基本計画 P80～P82 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H25	36 店舗 (基準年値)
H27	36 店舗
H28	34 店舗
H29	
H30	
H31	28 店舗 (目標値)

※調査方法：現地調査（毎年3月末）

※調査月：平成29年3月末実施、4月取りまとめ

※調査主体：姫路市

※調査対象：中心市街地内15商店街

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中心市街地商店街空き店舗対策事業（姫路市、姫路商工会議所、商店街等）

事業完了時期	平成13年度～平成31年度【実施中】
事業概要	中心市街地商店街内の空き店舗への出店者に対し、家賃補助等を行う。また、外部関係者と連携し、モデル商店街でのテナントミックスやチャレンジショップ実現に向けた事業を展開する。
事業効果及び進捗状況	創業者に対する支援により、新規出店が退店数を上回るなど、空き店舗数の改善が見られた。また、二階町商店街（モデル商店街として支援する）では、兵庫県立大学を中心とした外部関係者と連携することで、青年部が復活し、若い店主同士の結びつきが強化されたことにより、店舗間や商店街間での連携など、新たな活動が生まれ、新規店舗の開店等に繋がっている。

②. 街なか起業家支援事業（姫路市）

事業完了時期	平成27年度～平成31年度【実施中】
事業概要	街なかにおける起業家に対する支援事業を展開する。
事業効果及び進捗状況	中心市街地商店街以外で創業等により新たに店舗を出店する方に対し、内装工事費等の一部を助成する「まちなか創業支援制度」を継続して実施。平成28年度は、創業者3名に対し支援するなど、今後の、街なかの魅力向上が期待できる。

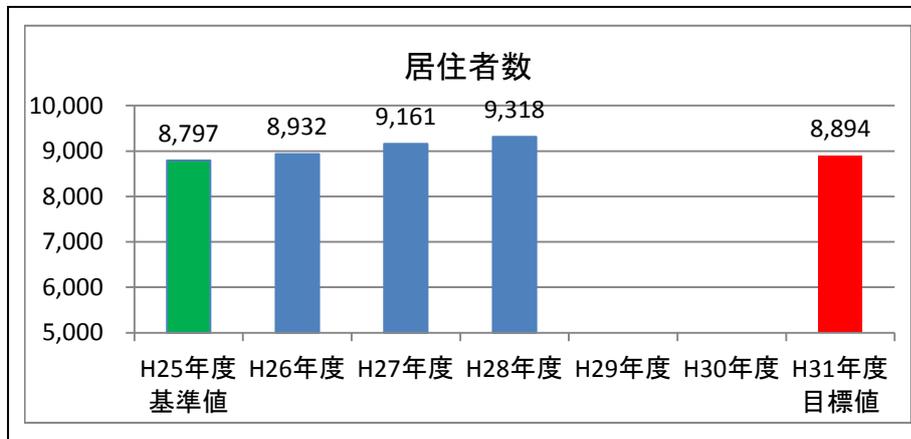
●目標達成の見通し及び今後の対策

「中心市街地商店街空き店舗対策事業」をはじめ、「まちなか創業支援制度」により、商店街以外での街なか創業者に対し支援するなど、商店街の活性化や街なかの魅力づくりに向けた取り組みにより、空き店舗数に改善が見られた。また、二階町商店街では、兵庫県立大学を中心とした外部関係者と連携することで、青年部が復活し、若い店主同士の結びつきが強化されたことにより、店舗間や商店街間での連携など、新たな活動が生まれ、新規店舗の開店等に繋がっている。

今後も、「新陳代謝の促進による街なか（商店街）の活性化」の目標のもと、計画記載事業だけではなく、より一層、各種関係団体との連携を図りながら、若くてやる気あふれる起業家や繁盛店づくりを引き続き支援していきたい。

「居住者数」※目標設定の考え方基本計画 P83～P85 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H25	8,797 人 (基準年値)
H27	9,161 人
H28	9,318 人
H29	
H30	
H31	8,894 人 (目標値)

※調査方法：中心市街地内の住民基本台帳登録人口（毎年3月末）

※調査月：平成29年3月末実施、5月とりまとめ

※調査主体：姫路市

※調査対象：中心市街地内居住者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 駅南土地区画整理事業（姫路駅南西地区）（土地区画整理事業）（姫路市）

事業完了時期	平成19年度～平成33年度【実施中】
事業概要	姫路駅南西部の連立事業による旧鉄道用地等を都心部にふさわしい計画的な市街地として再生することを目的に、都市基盤施設の整備改善を行い、宅地の利用増進を図る。
事業効果及び進捗状況	平成28年度は、支障物件の調査を終え、移転交渉を順調に進めた。平成29年度は、引き続き支障物件の移転交渉を進めながら、移転がクリアされた箇所より、順次区画道路の築造工事等を進める。また、当該事業とともに、他の姫路駅周辺整備事業等により、当該事業エリア周辺で、民間マンションの建設が引き続き進むなど、街なか居住人口の増加が図られている。

②. 姫路駅周辺土地区画整理事業（姫路市）

事業完了時期	平成元年度～平成 33 年度【実施中】
事業概要	JR 姫路駅を中心とする南北市街地の一体化を図る交通体系の確保、都市計画道路、公園、河川等の公共施設の整備改善を行い、新都心拠点としてふさわしい街区を形成し、多様な機能立地を図る。
事業効果及び進捗状況	平成 28 年度は、6 月 27 日に供用開始が遅れていた道路（十二所前線・下寺町線）の供用開始を行うとともに、当該事業エリア西部の支障物件の移転が完了した。平成 29 年度は、当該事業エリア東部の支障物件の移転交渉を引き続き進めるとともに、事業完了に向け、関連する道路の築造工事等を進める。また、当該事業の進行により、エリア内に民間マンションの建設が引き続き進むなど、街なか居住人口の増加が図られている。

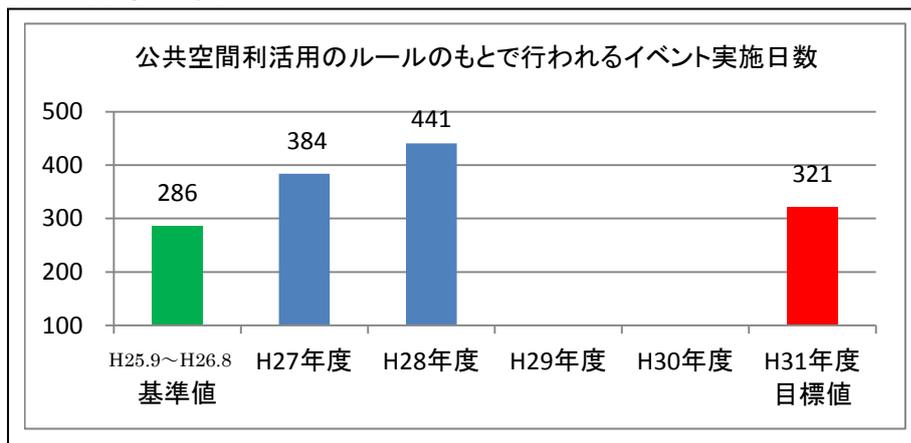
●目標達成の見通し及び今後の対策

駅南土地区画整理事業や姫路駅周辺土地区画整理事業の他、キャスティ 21 コアゾーン各ブロックの整備事業等により、街なか居住の魅力が向上することで、引き続きエリア内で民間マンションの建設が進むなど、主要事業は概ね順調に推移しており、目標達成は可能だと思われる。今後も、商店街をはじめ、各商業施設の魅力を高め、賑わいを創出するとともに、街なかを回遊してもらう取り組みを図ることで、中心市街地内全体に効果を波及させ、さらに実績を伸ばしていきたい。

「公共空間利活用のルールのもとで行われるイベント実施日数」

※目標設定の考え方基本計画 P86～P88 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H25.9 ～H26.8	286 日/年 (基準年値)
H27	384 日/年
H28	441 日/年
H29	
H30	
H31	321 日/年 (目標値)

※調査方法：施設管理者調査（報告）等（毎年 3 月末）

※調査月：平成 29 年 3 月末実施、4 月取りまとめ

※調査主体：姫路市

※調査対象：姫路駅北にぎわい交流広場（姫路駅北駅前広場）、大手前公園、中心市街地内 15 商店街（各エリアで行われるイベント実施日数を足し合わせる）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 姫路駅北駅前広場活用事業（姫路市、市民団体、商店街等）

事業完了時期	平成 27 年度～平成 31 年度【実施中】
事業概要	市民による姫路駅北駅前広場（姫路駅北にぎわい交流広場）の積極的な活用（継続的なイベントの開催）を促進することで、街なかへの集客力・回遊性の向上につなげる。
事業効果及び進捗状況	姫路駅北駅前広場の整備完了後、広場が市民・観光客の憩いの場となり、広場がイベント等で活用できる空間であることが広く周知されてきたことで、平成 28 年度は、週末だけではなく平日においても、音楽ライブや物産展など、多彩なイベントが行われるなど、依然として高い稼働率で広場の活用が図られている。（平成 27 年度 240 日→平成 28 年度 304 日）

②. 商店街にぎわい創出事業（姫路市、商店街、民間等）

事業完了時期	平成 27 年度～平成 31 年度【実施中】
事業概要	商店街等が、商店街の活性化のために実施する賑わい創出事業を展開する。
事業効果及び進捗状況	商店街に対する各種支援メニューに加え、市民団体等が商店街で賑わい創出のためのソフト事業を実施する場合にも支援することで、商店街の魅力向上を図る。また、二階町商店街を中心に、兵庫県立大学と連携し、活性化事業を展開することにより、若い店主を中心に、店舗間で連携が生まれている。 [商店街等に対する各種支援件数]（平成 28 年度） ・ イベント事業 12 件 ・ まちなか会場賑わいづくり事業 4 件

③. 大手前通り（十二所前線以北）再整備事業（姫路市）

事業完了時期	平成 27 年度～平成 31 年度【実施中】
事業概要	姫路駅から姫路城を結ぶ大手前通り（十二所前線以北）を再整備することで、駅からお城までの連続した高質空間を創出する。
事業効果及び進捗状況	平成 28 年度は、再整備の実施設計を策定し、平成 29 年 3 月から工事に着手した。平成 29 年度は引き続き事業完了に向け、工事を進めるとともに、官民一体となって、再整備後の大手前通りの利活用を含め、活用主体の形成について議論していく。また、沿道事業者を中心に、道路空間（公共空間）を活用する社会実験を継続して行う。 今後、活用主体が組織された場合、既に整備された姫路駅北駅前広場や周辺商店街との連携により、タウン・エリアマネジメントの運営に向けた仕組みづくりや街なかの回遊性向上に向けた取り組みが期待できる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「公共空間利活用のルールのもとで行われるイベント実施日数」については、姫路駅北駅前広場の整備完了後、広場がイベント等で活用できる空間であることが広く周知されてきたことにより、週末だけではなく平日においても、音楽ライブや物産展など、多彩なイベントが行われ、依然として高い稼働率で広場の活用が図られており、目標達成は可能だと思われる。

今後も、駅前広場を核として、街なかのにぎわい創出と回遊性の向上及び滞在時間の増加を目指す中で、タウン・エリアマネジメントの運営に向けて組織・人材育成を戦略的に進めるべく、大手前通り再整備事業の完了を見据え、街なかの活用主体の形成等について、中心市街地活性化協議会をはじめ、街なかの関係者と引き続き協議していきたい。